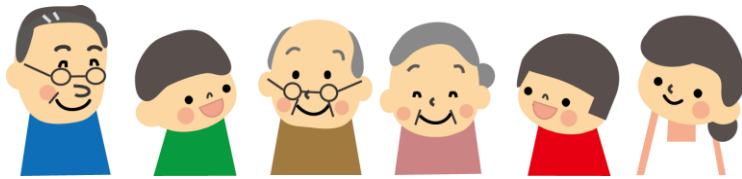


田無スマイル大学 フューチャー・セッション@西東京

「10年後、わたしたちがもっとワクワクするまちについて話してみよう！」

第3回テーマ「地域に眠る人財の活用」報告

「4月です、さあ始めよう！ イキイキする活躍の場を探そう！」



日時：2013年4月21日（日）10：00～13：00、交流会～15：00

場所：障害者総合支援センター「フレンドリー」多目的ホール、託児2C



アイス・ブレイク 誕生月



やってみたいことや感想を発表



自分のキーワードを皆で見せ合う



ゲストのお話



主催者挨拶

主催：田無スマイル大学実行委員会 共催：対話ラボ
後援：ソーシャルグッド西東京、西東京市、西東京市社会福祉協議会

1. 参加人数

- 参加者：40名（スタッフ8名、ゲスト3名を含む）
- 託児：子ども6名、ボランティア4名
- 参加者の構成：男性21名、女性19名（大学生1名、事業主4名、行政の人1名、65歳以上11名、他地域の人13名）（小4年生～80歳代）

2. 連絡事項と主催者挨拶（富沢）（10:00-10:10）

フューチャー・セッションは、私たちの暮らしを良くするには、まちを良くする必要がある、でも、行政に任せっぱなしにしたり、文句を言ったりするだけでなく、自分達でやれること（行政の監視も含め）はやって行こう、という考え方に立っています。

第一回は、「未来を担う子ども」、第二回は、「防災」をテーマとしました。今回は、第三回目で、「地域に眠る人財の活用」が正式なテーマです。でも、これでは人が集まらなないと、イベントのタイトルとして「4月です、さあ始めよう！イキイキする活躍の場を探そう！」としました。

主に、「子育て中のお母さん」、「定年退職後のお父さん」、「現役会社員」をターゲットとし、この人たちが新しい活躍の場を見つけ出すことによって、今よりも充実した生活を送れるのではないかと考え、そのターゲットに対応したゲストをお呼びしました。

このテーマを取り上げたのは、第一回のFSの折に、「子どもがイキイキするには、大人がイキイキしていない」という意見が多かったことにも関係しています。

ゲストのお話を伺った後、参加者全員で、自分がイキイキするにはどうしたらよいかなどについて話し合いたいと思っています。

3. アイス・ブレイク（気持ちを融かす）（対話ラボハル）（10:10-10:20）

最初に手挙げ(田無スマイル大学FS何回目、西東京市の人)をやった後、皆で一つの円になり、最初は、誕生月ごとに並び、次に、生まれた県ごとに北から並び、県の名前と自分の名前（呼ばれたい名前）を名乗りました。

なんと、誕生日がまったく同じ人が3組も出ました。最年少の4年生は、1月生まれでした。



4. ゲストトーク (10:20-11:05)

(ア) 鈴木涼子さん (子育てしながらキッズダンス・インストラクターとして活躍)

涼子さんが関わっている西東京市と所沢市のダンス・サークルの様子を写したビデオを流しながらお話頂いた。



- ・ 大学時代にダンス・サークルに入り、これにはまった。卒業してすぐに、このサークルで教えるようになった。しかし、結婚して第一子が生まれ、妊娠中も含め、2年くらいダンスを止めていた。
- ・ 子供がある程度大きくなり、身体を動かしたくなって、スポーツクラブ（託児があった）や既存のサークルに参加し始めた。ちょうど、そのサークルのお母さんたちが新たにサークルを立ち上げ、指導者が欲しいということでお誘いがあった。

- ・ 自分にとって、キッズ（子供たち）にダンスを教えるのは、これが最初。第一子が生まれて、「子どもってこんなに可愛いんだ」という思いになり、保育士の資格までとった。今ダンスを教えているのは、何より、子どもたちと触れ合えて楽しいから。そのうち、ママたちにも教えるようになった。
- ・ 確かに子育てをしながら、ダンスを続けるのは、難しい。夫の理解のお蔭もある。サークルの場合には、子どもを一緒に連れていけるし、ママたちが互いに子供の面倒をみってくれる。スクールになって、きちんとした対価をもらうとなると、子どもを実家などに預けて、集中して教えることが求められるが、サークルだからやっつけられるという面もある。
- ・ 同じような立場（子育てしているので、なかなかやりたいことに踏み出せない）方々に私から言えることは、普段からやりたいことをお友達や周りの人に発信していること。そして、誘われたら、何でも受けてみるということではないかと思う。発信していると、お声が掛かることがある。最初は、大変かなあ、出来るかなあと思うけれど、勇気を奮ってやってみると、そこから道が拓けるように思う。今日も、人前で（ダンスを踊るのではなく）お話をするのは、初めてのことで躊躇されたが、思い切ってお引き受けた。

(イ) 梅原昭彦さん (リタイア後、NPO 法人セブロスで高齢者向け PC 教室などで活躍)



- ・ 梅原さんは、大手通信機器メーカーを退職し、地域でなにかやりたいとは思いつつも、それまで仕事中心の生活をしてきたので、地元には知人はいないしと探しあぐねていた。
- ・ そんな折、奥様が、NPO 法人セブロスが始めた第一回「シニア情報生活アドバイザー養成講座」のチラシを持ってきてくれた。もともと、パソコンは好きだったので、団体の活動を見学にいったら手伝ってと言われて会場設営を手伝ったりした。そんなこともあり、養成講座を受けた。この

講座は長期間だったので、次第にセプロスの人とも知り合いになり、だんだん手伝うようになった。

探し始める

- 仕事中心の生活
- パソコンが好きだった
- 海外に駐在していた
- 近所に知人は少ない

見つけるきっかけは

- 偶然チラシを
- 団体の活動を見学
- シニア情報生活アドバイザー養成講座受講

机を並べるので手伝って!

- ・ NPO 法人セプロスは、以前から、「リボンメール」という名前の電子メールを使った高齢者の安否確認活動を行っていた。それには、高齢者がメールを送受信できるようになる必要があり、パソコン講座はもちろんだが、それだけではなかなか自分のものにならないので、体験会を実施したり、親しくなるための交流会をしたりしている。
- ・ 安否確認メールがちょっと遅れると、高齢者の方がむしろ心配してメールをくれるなど、会員の楽しみになっている。その中から、もっと高度なことをやりたい（年賀状づくり、名刺づくりなど）人も出てきて、別の講座を実施することもある。

リボンメールって？

- 電子メールを使った高齢者の安否確認活動

毎日メールを送って、返信で安否確認

メールを送受信できるように

- メールが出来るまでの講座や体験会

パソコン講座 交流会
コーヒーショップ パソコン体験会

- ・ このほか、セプロスの広報活動（HP、メルマガ、情報紙）なども担当している。

広報も重要です

- ホームページ
- メルマガ
- 情報紙

活動を通して感じたこと

- 組織活動である
- NPO法人であれば、法人としての基準に適合して運営する必要がある
- ボランティア的な活動である
- 比較的緩い結合で活動している
- 市民活動と自分の生活のバランス

- ・ NPO 法人は、組織活動であり、法人としての基準に適合して運営する必要がある。一方で、企業に居た人間からすると、効率が悪いと思うこともある。しかし、その辺は、割り切っている。ボランティア的な活動であり、自分の生活とのバランスも考えながら、ゆったりやっている。

退職後、地域で何か活動したいが・・・と戸惑っている方達も、焦らず、いろいろな情報は、公民館や市報等にたくさんあるので、ゆっくり探し、自分にあった活躍の場と活躍の仕方を見つけていくのが良いと思う。

(ウ) 玄道優子さん（仕事の傍ら、社会問題に関心がある個人と個人のスキルや経験を必要としている NPO/NGO 等の団体をつなぐサイト「もんじゅ」を運営。「もんじゅ」を活用している人たちについてもご紹介）

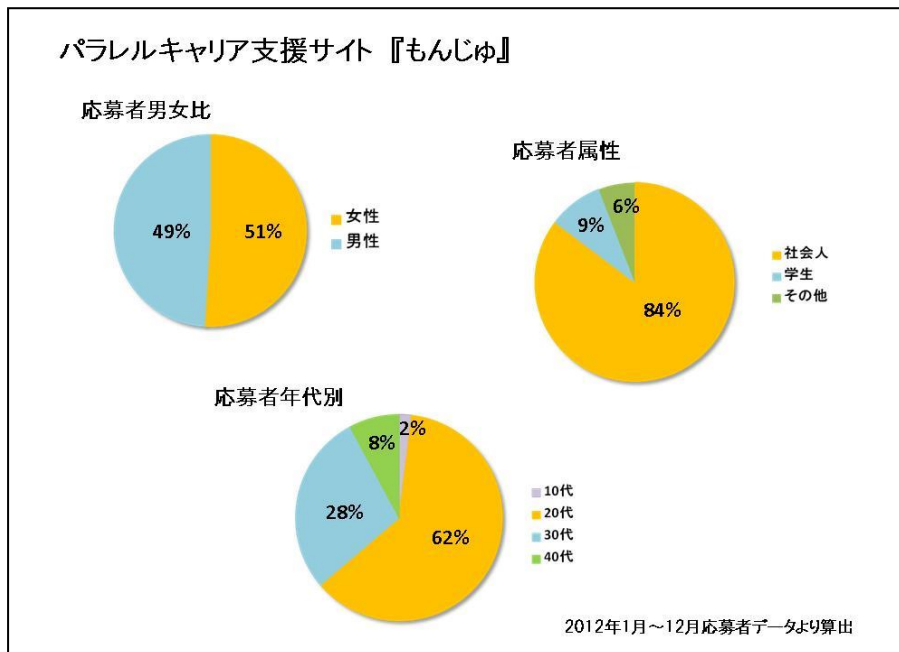


- ・ 学生時代に、NGO でボランティアのインターンを経験した。卒業して旅行会社に就職したが、思っているような仕事が出来ずに退職し、一人で途上国に入り、フィールドワークを行った。しかし、世界には助けを必要としている人・場所がたくさんあるのに、一人では何もできないことを痛感し、失意のうちに帰国。
- ・ 途上国に限らず、私たちの周りで助けを必要としている人・場所があるのに、どうやって探せばよいのだろう。そういえば、学生時代は、友人も社会活動していたけど、社会人になってから辞めてしまったなあ。もし、社会人がボランティアしたくなったら、どうしたらよいのだろう・・・と考えるうちに、そうだ、社会人が「リクナビ」などで仕事を探すように、ボランティアを探せるサイトを作ればよいと思い至った。





- ・ 私自身は、IT のコンサルをしているが、WEB サイトが作れるわけではなく、**いろいろな人に、こんなサイトがあったら良いのではと話しているうちに、共感する人が集まってくれて**、現在の Social Marketing Japan を立ち上げた。「もんじゅ」は、文殊の知恵から取っている。サイトでは、社会人向けボランティア情報を集めて掲載、ボランティアをした人の体験談も掲載している。
- ・ 掲載団体としては、「社会人ボランティアを増やして組織を活性化させたい」、「経験とスキルを持った人材が欲しい」、「モチベーションの高い人材が欲しい」などのニーズがあり、マッチングを上手くできるようにするために、欲しい人材を明確化するのを手伝えることもしている。



- ・ 「平行キャリア支援サイト」と銘打っているように、**社会人に、ボランティア（社会貢献）を通じたもう1つの人生の形成を支援することを意図している**。社会人にも、「仕事以外で経験を積みたい」、「会社以外のコミュニティが欲しい」、「経験とスキルを活かした社会貢献がしたい」、「何か新しいことにチャレンジしたい」という方がおり、ボランティアをしたいというニーズはある。
- ・ 図にみるように、男女半々の比率、社会人が中心、年代別には、20代~30代が多い。詳しくは、「もんじゅ」のサイトの体験記を見て下さい。 <http://monju.in/>

応募者の声（例）

① スキルを活かした経験を積む、またはスキルアップしたい

- ・ 将来、言語関係のお仕事をしたいと思っています。翻訳関係のボランティア活動で、経験を積ませていただきたくと思っています。環境分野に関心があり、こちらの団体（ジュゴン保護キャンペーンセンター）に決めました。（20代・女性）
- ・ デザイナーをしており、仕事では主に photoshop、Illustrator を使用しております。自分の持てるスキルで何か新しい①とに挑戦し、自らのスキルアップも図りたいとボランティアを探していたところ、「絵本」をきっかけに「教育」によって子どもたちの自立を支援する公益社団法人シャンティ国際ボランティア会（SVA）様に出会いました。（20代・女性）
- ・ 仕事以外の何らかの活動をしてみたい、新しい人間関係を築きたいと思ったこと、また仕事で培ったシステムエンジニアとしてのスキルを役立てることが出来るのではないかと考えたためです。HTML/CSS/Javascript/PHP のコーディング経験があり、土日なら作業可能です。（30代・男性）
→まちづくり団体「虹の扉」でWEB担当

②仕事とは全く異なる分野の勉強・経験をしたい

- ・ 自分自身が子どもを持つことを意識するに従い、子どもと触れ合い接し方を考える具体的な機会がほしいと思いました。子どもが幸せになるために大人はどのような意識であればいいのか、身をもって感じたいと思います。（30代・女性・マスコミ）→NPO 法人夢職人で子どもを対象にした教育コーディネーター
- ・ 医療関係はまったくの素人ですが、知人が医療関係に従事しており、以前より興味深く感じていました。会社とは別の社会活動を通じて自分自身得られるものがあるのではないかといい、今回志望させていただきました。（20代・男性・製造業）→医療システムデザイン勉強会の分科会補助スタッフ

5. 隣の人3人でゲストのお話について感想を述べ合う（11:05-11:10）



6. 各自が自分のキーワードを画用紙に書き込む（11:10-11:15）→休憩（11:15-11:30）の後、それを見せ合う（11:30-11:30）。

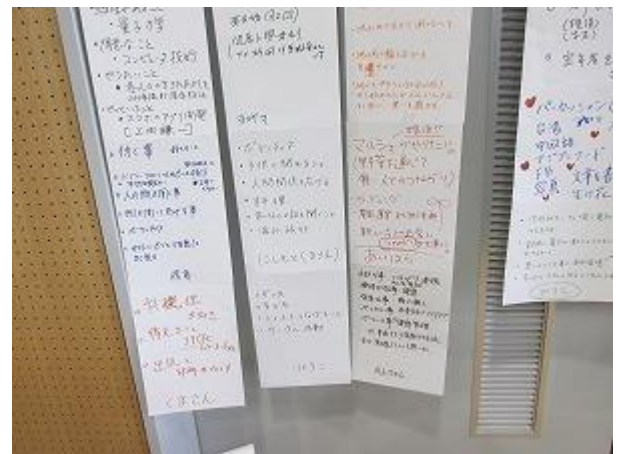
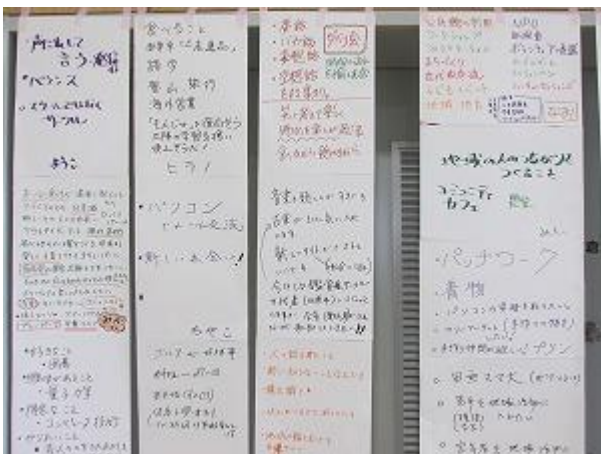
自分のキーワード

- ① 好きなこと
 - ② 興味があること
 - ③ 得意なこと など、なんでも
 - ④ やりたいこと
 - ⑤ やっていること
 - ⑥ 話を聞いて思ったこと
- 名前（呼ばれたい名前）



7. 見せ合った後、4人でチームを作る（11:30-11:35）、ワールドカフェの説明（11:35-11:40）、チームごとに自己紹介（11:40-11:55）

同じような気持ちの人と出会えれば良いですが、必ずしも同じような気持ちの人でなくてもOK。互いの関心ごとを話し合いました。自分のキーワード一覧は、**別紙**（ネット環境にある方には、送付済）。上記の項目について全部書いた方、一部分についてたくさん書かれた方などいろいろでした。



たとえば、全部の項目について書いた「のんちゃん」は、①つながり、連携、社会参加、②健康、③特になし、④西東京市とタイアップ、⑤健康管理、東南アジア諸国との交流、⑥それぞれに素晴らしいと思った、と書かれていました。

「あいはら」さんは、マルシェがやりたい、婚活？（野菜を通じて、食、人のつながり）、ガーデニング、農園運営（まだまだ未熟）、新しい方との出会い、「つながり」を大切に、と書かれていました。

いろいろな方々がいろいろな特技や興味を持たれていることに感動しました。参加者の方々は、ゼロからのスタートではなく、すでに何かしらやっておられるけど、それをさらに発展させたいと思われていることがうかがえました。自己紹介カードは、壁に全部貼り出しました。

8. 同じチームのままで、「面白いと思ったこと、やってみたいこと」(11:55-12:15)

9. チームを変えて、同じ問いについて話し合う(12:15-12:35)

10. 面白いと思ったこと、やってみたいことを各自がポストイットに記入(12:35-12:45)

ポストイットに書かれたことは、**別紙**（ネット環境にある方には、送付済）。ポストイットは、①面白いとおもったこと、②やってみたいと思ったこと、③募集に分けて、白板に掲示し、賛同者を得たい場合や募集を募る場合には、自分の連絡先も記入しました。



11. 全体共有（今日感じたことなどを、手を挙げて発言）(12:45-12:55)



- ・ 山田さん：皆さんがとてもエネルギッシュなのに感動しました。
- ・ 梅原さん：地道に現在やっていることを、このまま進めていけば、道が拓けるような気がしました。
- ・ 藤島さん：静岡の学生さんが震災に備えて地域の絆をつくりたいと言われており、若い方がこういう活動を続けられるのがとても嬉しいです。
- ・ 青野さん：今褒めて頂いた静岡の学生です。地域の絆をつくりたいと思っています。

- ・ 西本さん：友達がいろいろ活動している。私も今日参加して何かやりはじめたいと思った。
- ・ 竹中さん：仙人の家というコミュニティ・サロンをやっており、今日も手芸が趣味という方がおられた。こういう方が使える場所なので、是非活用して欲しい。



- ・ 上田さん：自分は、多摩市で、コミセンの運営委員としてボランティアに参加しているが、70～80歳の高齢者ばかり。今日、若い人たちが大勢参加しているのに驚いた。
- ・ 津富さん：地域のつながりをどのように構築していくかに興味がある。「知っている人が誘う」の連鎖か。
- ・ 古林さん：年齢、性別、立場がさまざまな人が参加されて

いて、その人たちの興味、想いなどを聴いて元気が出ました。

- ・ 鈴木：田無スマイル大学を立ち上げた一人。今後、いろいろな人がこのスマ大を使って、それぞれの興味のある多様な講座を開催できるようにしていきたい。
- ・ 富沢：ゲストの方が「やりたいことを声に出すと仲間が見つかる」と言われたことがとても興味深かった。

1 2. 中締め挨拶 (12:55-13:00)

このFSは、老若男女が集まる特徴がある。今後は、子ども会議なんかやりたいなと思っている。毎回少しずつ違う方がこられているがコアが固まりつつあるので、是非、皆さんがまた誰かを誘うというような感じで、対話の場を広げていきたい。

1 3. 交流会 (13:00-15:00)

1 4. アンケート

アンケートは、**別紙** (ネット環境にある方には、送付済)。概観すると、皆さん、今日のセッションで、前向きなエネルギーを得られたと書かれていました。